



ネトラレン

Vol.4

KAN-SEN 寝取られ記録

「それじゃあ指揮官♥行ってくるわね」

「そんな不安そうな顔しないで♥
私は大丈夫だから…」

（私は指揮官の重大な失態を償うため
対価として上官に抱かれることに…）

（この男の機嫌を損なえば指揮官が
処刑台に送られる可能性もあるわ）

（それだけは絶対に阻止しないと）

「すぐ終わらせて帰ってくるから♥」

（だから何をされても
耐えてみせるわ）



「んくっ♥なんて凶悪なサイズなの：
それにこの臭い！ッ♥」

（頭がくらくらする♥
身体もなんだか熱い…ッ♥）

（気をしっかり保っていないと
おかしくなってしまうわ）

むにゅ♥

ああ♥
ああ♥

「アッ♥あああッ♥♥
こ、腰い♥止めてえ♥
イクの止まらないッ♥♥」

（凄すぎる♥指揮官とじゃ
こんなに感じな…ッ!）
（私、今なんてこと…）



「んぶっ♡えれろおお♡んお♡
顔が蕩けてる?♡ち、違うわ♡
早く終わらせたいだけ…」

「そう、これは上官である貴方の命令だから
仕方なく奉仕しているだけよ♡」

ぢゅ♡

「このたくましいペニスが
愛おしいわけじゃないわ♡」

ズキュー♡

「ほら、早く挿入すればいいわ…♡
今日も一日中、私が気絶するまで
犯すつもりでしょう?」

フッ♡

フッ♡

じゅ♡

(指揮官とじゃ絶対にできない
貪り尽くされるような交尾♡)×

(大丈夫…ッ♡

もうちよつとだけ!!
味わうだけだから…♡)

キュン♡

キュン♡

ぐにゅ♡

ハァ♡

ハァ♡

ゾク♡
ゾク♡

「私は決して堕ちたりしないわ♡
だからそのぶつつつといべ…チンポ♡で
私を好きなだけ犯せばいいわ♡」

(この男が満足すれば
指揮官のところに帰れる…)

(……帰って指揮官と何をするの?)

(今更あの粗末なチンポと
セックスするの…?)

「え...?」
飽きてきたから...今日で最後?
そんな...ダメよ...」

「ほ、ほら♥私はまだ堕ちてないわ♥
私を屈服させるのでしよう!」

「だからその遅いチンポで
早く犯しなさい♥」

「服従を誓わないなら
今すぐ送り返す?」

「.....ッ!!」

「お願いします♥貴方様に絶対の服従を誓います♥
どうかこの卑しいメス豚を、貴方様のペットにお迎えしてください♥」
「貴方様の屈強で優秀なチンポで、好きなだけ、
私のおまんこをオナホのようにコキ捨ててください♥♥」

「ゴミチンポな無能指揮官なんて、
もうどうなっても構いません♥♥
貴方様のお好きなように処分なさってください♥」

「心からの服従の誓い♥♥お気に召していただきましたか...?
これからどうか、末永くこのメス穴をお使いください♥♥♥」

「元・指揮官♥久しぶりね♥
あなたにとっても大事な報告があるの♥」

「私、インプラカブルは
この○○様とケッコンしたの♥」

「あなたには感謝しているわ♥
あなたが使えない屑のお陰で、
○○様と出会えたのだから♥
○○様すごいよ♥あなたと違って優秀で遅しくて、
何度でもイかせてくれるの♥」

「ああ、それと…あなたから貰った指輪は、捨てちゃった♥
でも、別に構わないでしょう…♥
だってあなたはもう、指揮官でも何でもない、処分された無能なんだから♥」

「それじゃ♥私は○○様とのセックスに集中したいから♥
さっさと消えてちょうだい♥」



【記録No.37】
ファンシー
&
ゴールデンハインド

ああ♡
またイク♡

イクのっ♡
止まらないッ♡

あああ♡
イクう♡

もっとお
きて♡

ズン
ズン



「うふふ…♡どう…？指揮官、
すごいでしょ…♡
ご主人様と私たちの交尾映像は♡」

「情けないチンポ、そんなにピクピクさせて、
…気に入ったんだ？」

VR

「どんな雌でも屈服させ支配するセックス…♥
指揮官には絶対にできないものね♥」

「触つてないのにもう射精しそうなの？
フフ：♥そんな雑魚チンポだから、
私たちに捨てられちゃうのよ♥」

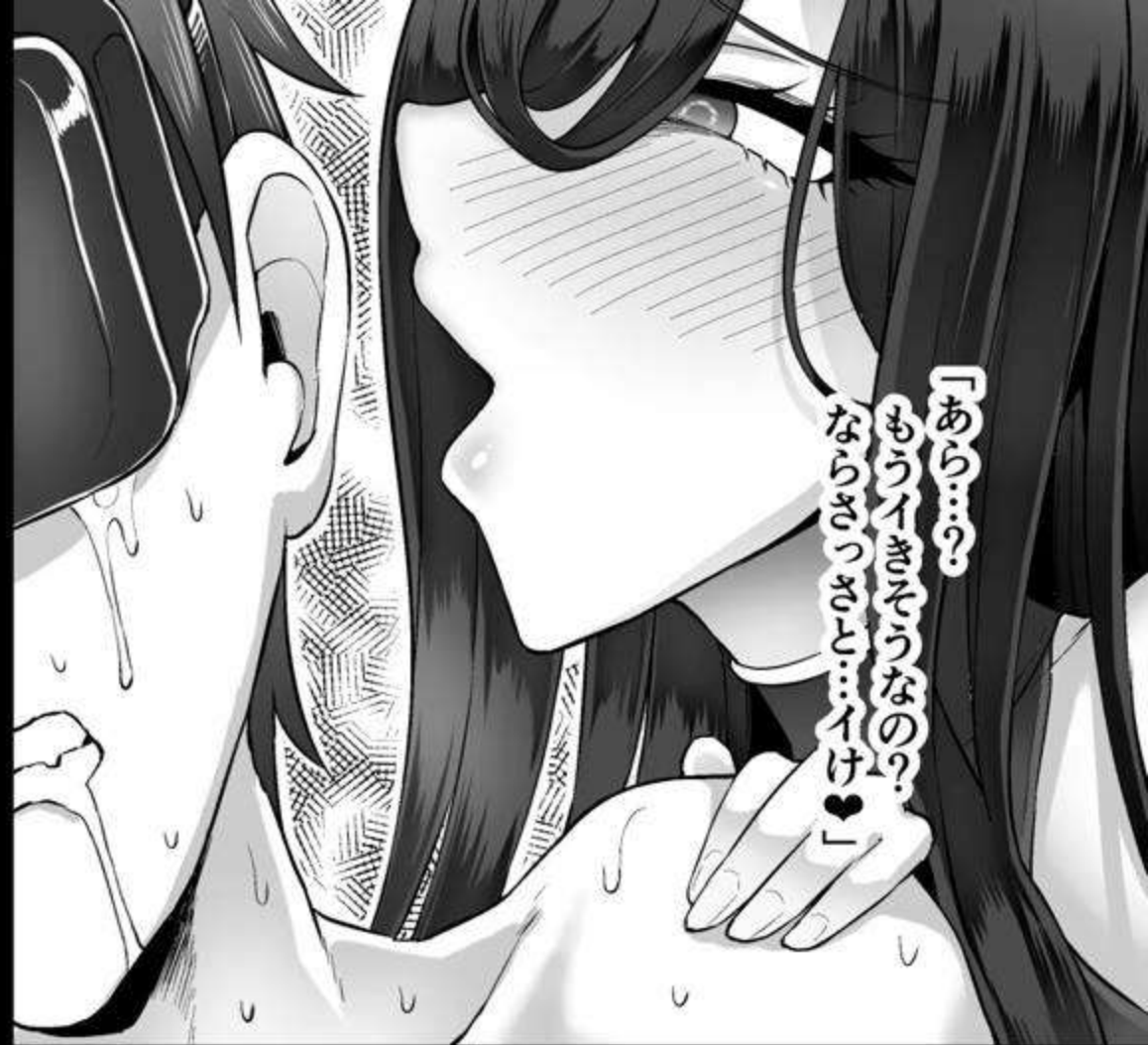
「ご主人様のセックスをよ〜く見て
反省したほうがいいわ♥」

「ご主人様のチンポを初めて味わったときの
あの衝撃！♥
本当にすごかったわ♥」

「我々を支配してくれる
最高のオスなんだって、
一瞬で脳が理解したわ♥」



「下等な精子、とっとと出せ♡
ぴゅっ♡ぴゅうう♡」



「あら…？
もういきそうなの？
ならさっさと…イけ♡」



「そんなんじや誰とも繁殖できないわよ♡
ほら、しっかり頑張つて♡
ピュッ♡ピュッ♡ピュ♡」

「ふふふ♡
ほおんと、みじめな射精♡」



「お望み通り一人で来たわ…
さっさと始めましょう」

「言っておくけど、これ以上ふたりに
手を出したら許さないわよ」

(ボルチモア、ブレマートン…
今助けるわ)

Got new slaves♥

(こんな気持ち悪い男に一週間も身体を
好きにさせるなんて最悪だけど…
指揮官ちゃんとのいちゃラブ4P性活の
ためなら仕方ないわね)

(待っていて指揮官ちゃん、
ふたりは必ず連れて帰るから！)

「んおおお♡うお♡イグッ♡
す、少し休ませてえ♡」
(なにこのチンポっ♡気持ち良すぎて
意識っ♡とぶう♡)

「ぐっ♡うう♡ち、ちよつとセックスがうまいからって
調子にッ♡の、乗らないでッ♡」

ズン♡ズン♡

んぐう♡

ビク♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

ビク♡

イッ♡

「うう♡あ…っ♡」

(こんな♡…ヤバすぎるセックスを…一週間も?
こんなの続けられたら…おかしくなる♡)

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「ブレマートン…！ボルチモア!!ダメツ♥目を覚ましてっ!!」

「フツ♥ピッツバーグも

ご主人様のモノになる♥」

「こんなエグいセックス♥

経験しちゃったらあ♥

指揮官なんかとの

お子様セックスには

戻れないでしょ?」

「うう…♥」

ビクッ

「そ…そんなこと…♥
ないっ♥」

「ご主人様のデカチンポ、

そんなに奥までくわえこんで♥

こっちのチンポのほうが、ずうといいって

本当はもうわかってるんだらう…?♥

ほら♥一緒に気持ちよくなるらう♥」

「はあ♥はあ…ツ♥」

（指揮官ちゃん…♥私…っ♥）



「指揮官ちゃん♡
元氣い？久しぶり♡」

「反逆罪で捕まったんですって？
ダメじゃない、上官様に逆らったら♡」

「これから一生、監獄で
可哀そうだからと、
ご主人様から私たちが
気持ちよくなってる映像を
送ってくださるそうだ♡
これで寂しくないな♡」

「そういうことだから♡
私たちはこれからご主人様と
本気交尾するけどお♡」

「ミニマムザコチンコの…無能男君は、
暗い独房で、画面越しの私たちを見つめながら
ずいっと一人で、情けなくシコシコしてなさい♡」



(上層部からの指令で、母港で預かる
さる将官のご子息とは、
…こんな不躰な小僧なのですか)

「私はグロスターと申します。
ご主人様の命を受けて、あなたの
身辺のお世話、および教育係に
任命されました」

「かなりの問題児と聞いております。
そのあたり、私が徹底的にしごき上げますので
覚悟することですね」

「おおお♥ほおおお♥
や、やめなさい♥
指導するのは♥私ですッ♥」

(この子のペニス♥長すぎるッ♥
ご主人様じゃ届かないところまできてる♥♥)

おお♥

あ♥

んぐう♥





(だ…だめッ♥わからされるっ♥♥
ご主人様とっ…♥この子っ♥
どちらが優れたオスなのかつ♥♥)

(仕えるべき私の真の主…♥
それは…このご子息様と…♥♥
おまんこにっ♥刻み込まれて…♥♥
上書きされてしまいます♥♥♥)



「ハッ♥ハッ♥ワンツ♥クウーン♥
今まで生意気な態度をとってしまったこと、心から反省いたします♥
しつけが必要なダメメスは、私のほうでございました♥♥
もっと…♥もっと、その立派なチンポで私のダメおまんこを
いっぱいしつけてください♥♥」

「あんな手のかかるお子様チンポ男など、私の主人でも何でもありません♥
貴方様こそ♥私のっ♥真のご主人様でございます♥♥」

「お帰りになられる時は…♥どうかお願いいたします♥
今後は貴方様だけの…おまんこ担当、専属オナホメイドとして♥
ご主人様のしたいこと♥なんでもお世話いたします♥♥
おまんこメイドを…♥一緒に連れて帰ってくださいませ♥♥」

「…チッ。
本っ当最悪だわ…」

（この私が、こんな娼婦のような
真似をしないとイケないなんて…）

「契約者は無事なんでしょうね？
あの人に手を出したら、この屋敷ごと潰すわよ」

（上官だとかなんて知ったことではないわ
私の契約者を傷つけるモノは何であれ許さないわ）

「ほら、私とセックスしたいならしてあげる。だから早くしなさい！」

（契約者といつもしてること、こんな奴ともなんて癪だけど、
こんなオヤジ、少ししたらすぐ枯れるでしょ…）

サス
サス♡



オオ♡

「オオオ♡イグッ♡♡イッてるがらあ♡
降ろしなさいいい♡私の負けでいいからあ♡
…ッ♡まだイグッ♡♡♡」

ビクッ♡

ズン♡

オホ♡

ズン♡

ビクッ♡

イグッ♡

ビクッ♡

「知らないっ♡こんなすごい交尾い…♡♡
契約者のなんかじゃ…あッ♡すごいっ♡♡
こんな気持ちよくしてもらえたことないっ♡♡」

フー♡

んぶ♡

フー♡

(スゴすぎるう…♡♡オマンコ幸せ…♡
オマンコと…本能が…
絶対このオスだって言ってる♡♡
こんな強者の交尾…♡
こんなもの知ってしまったら、
契約者としてきた今までのエッチなんて
おままごと以下…ゴミの交尾だったのね…♡)

ドキュッ♡

ピン♡

ピン♡

はあ♡

はあ♡

「私が間違っていました♡
貴方こそが私の契約者です♡」

「前の契約者のことはあ♡
もうどうでもいいわ♡♡」

「あなたのためなら♡何だってするわ♡
望むままなんでもしてあげる♡
だから…♡もっと…♡もっと欲しいの♡♡
どうか私に…♡♡
あなたのスッゴク熱くて濃い…♡隷属の調印を♡
私のオマンコが融けるまで注ぎ込んで♡♡」

ゲロ♡

「あらあ♥無能すぎて処分された
元・指揮官ちゃんじゃない♥
こんな所でコキ使われてたなんて♥」

「聞いたわよ♥
寝取られちゃったコたちのエッチな動画で
毎日無様にシコシコしているんですって??
今も私の姿を見てちっさいチンポ膨らまして…♥
本当に情けない…
どうしようもない男…♥」

「手でもいいからヌいてほしいって?..
はあ…ほんととおりにクズなのね♥
私はこれからダーリンに朝まで犯していただくの♥
あんたなんか使う時間なんて…あると思ったの?..♥」

「あ♥でも…今ここでするなら、見ていてあげるわよ♥
いつも自分でしてる…情けなしい、惨めなオナニー♥♥
あんたみたいなゴミ、触れるなんて絶対にイヤなもの♥」



「は〜い♥用意できました♥」

ご主人様も、ご準備は大丈夫ですか？

たった10秒：おちんちん我慢するだけですよ〜♥

ちゃんと我慢できたなら：シラのおまんこに♥

ご褒美ハメハメ、今日こそできますよ♥

いきますよ〜♥し〜こ、し〜こし〜こし〜こ〜♥」

「あつ…♥またも耐えられませんでしたか…♥」

1分では勝負にならないからと、

折角、上官さまのお情けで10秒にしていたのに♥

何回やっても、すぐに果ててしまうなんて…♥」

「フフッ♥そんなお顔しないでくださいませ♥

大丈夫ですよ♥

ご主人さまがどんなに無能で情けないおちんちんの

寝取られマゾ男であっても、シラは見捨てたりしません♥」

「ですから、また明日も射精我慢勝負に挑戦しましょう♥」



「それでは、今日もご主人さまの負けでしたので
シラはお隣の部屋でお待ちの上官さまに
いっぱい抱かれてまいります♥♥
勝負ですから、仕方ありませんよね♥」



パタンッ

ああ♥

オッ♥

オオ♥

イグッ♥
イグ♥

Next Target



—奥付—

- タイトル ネットーラレーンVol.4 KAN-SEN 寝取られ記録
- 発効日 2024年12月30日(コミックマーケット105)
- 発行 へんたいゑむぶれむ
- 著者 OKASIRA
- 連絡先 y_mukurro@yahoo.co.jp

無断転載及び複製、アップロードを禁止します。

